

保証と共感

阿部 裕彦 (Hirohiko Abe)

無所属

マイケル・スロートの感情主義的認識論 (sentimentalist epistemology) は、共感 (empathy) が認識的正当化の源泉の一つだと主張する。共感は、一定の好意的態度 (favoring attitude) とともに、相手の観点に立つこと (perspective-taking) であると理解される。子どもが身近な大人の発言やリアクションから世界についての知識を獲得するとき、子どもはその人の能力や誠実さ、内容の正確性などを評価することなく、ただその大人を信頼することによって、その人の態度をみずからの信念として引き受け、知識を獲得する。ここで、子どもが獲得する信念が知識である以上、身近な大人に対する子どもの共感が認識的正当化を与えていると考えられる。すなわち、子どもは身近な大人の観点に立って考え、好意的な態度をとることによって信念を獲得しており、そのことによって同時に認識的に正当化される (Slote 2014 ; Slote 2017)。

感情主義的認識論において共感の認識的重要性が論じられる際、基本的に、聞き手から話し手への共感に焦点が当てられている。しかし、共感が相互であることを考えると、話し手から聞き手への共感にもまた認識的重要性が見出せると考えられる。本発表では、エドワード・ヒンチマンらの保証説 (assurance view) から、証言における話し手から聞き手への共感の役割を特定することで、共感が認識的正当化を与えるという認識的感情主義の新たな側面を明らかにする。

ヒンチマンによれば、聞き手が独立の証拠なしに話し手の証言を受け入れて知識を獲得できるのは、「保証 (assurance)」という言語行為が成立しているからである。保証は単なる主張 (assertion) と異なり、「聞き手の信頼を招く (inviting trust)」ものとして特徴づけられる。保証説によれば、聞き手が話し手を信頼することに加え、話し手が聞き手に保証を与えることが、証言による知識獲得の場面での認識的正当化において本質的な役割を果たしている (Hinchman 2014)。

信頼を招くために、話し手には次の二つの能力が求められる。第一に、真の内容を述べる能力であり、第二に、聞き手の熟慮を終結させる能力である。第一の能力は、聞き手の真の情報を得たいという認識的ニーズを満たすものである一方、第二の能力は聞き手の行なっている認識的な熟慮に関する文脈的なニーズを満たすものである。本発表では、話し手に求められるこれら二つの能力のうち後者に注目する。ヒンチマンによれば、証言によって聞き手の熟慮を終結させるには、話し手は聞き手の文脈に立って発言しなければならない。例えば、ピーナッツが嫌いな話し手が、ピーナッツアレルギーの聞き手に、「このクッキーにピーナッツは含まれていない」と保証するとき、単に嫌いだから避けるための比較的簡易な確認だけでなく、アレルギーの人に合わせたより厳しい正当化の基準を採用しなければならないだろう (cf. Hinchman 2014)。

本発表では、ここに、話し手から聞き手への共感を見出すことができると論じる。保

証する際、話し手は聞き手の認識的正当化の基準をもとにメッセージを伝える必要があるが、そのためには、聞き手の置かれた状況や持っている関心など、話し手は聞き手の観点に立たなければならない。相手の観点に立つにはその相手への一定の好意的な態度が求められるとすると、保証において、話し手は聞き手に対して共感を示していると言える。保証説においては保証という言葉行為が聞き手の獲得する信念の認識的正当化を与えると考えられることを踏まえると、証言による知識獲得の場面における認識的正当化に話し手から聞き手への共感が本質的に寄与していると言える。

以上から、本発表では、保証説の検討を通して、証言による知識獲得において話し手から聞き手への共感が認識的正当化を与えると論じる。これにより、保証という言葉行為に共感という感情的側面が含まれると指摘する。また、感情主義的認識論において従来十分に論じられていなかった話し手から聞き手への共感と認識的正当化の関係を指摘することで、共感が認識的正当化を与えるという感情主義的認識論の主張の新たな側面を明らかにする。

参考文献

- Hinchman, Edward, 2014, "Assurance and warrant.", *Philosophers' Imprint* 14, 1-58.
Slote, Michael, 2014, *A Sentimentalist Theory of the Mind*, Oxford University Press.
Slote, Michael, 2017, "The Many Faces of Empathy.", *Philosophia* 45 (3), 843-855.